

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 11 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/11 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 1.9m ³ /h	30.9	105.2 kPa abs	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.4 m ³ /h	41.2	9.23 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.5 m ³ /h	40.3	0.24 kPa g	A系： 0.11 vol%
		給水系：約 2.0m ³ /h			B系： 0.09 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

- ・H25/10/9 10:08 頃 1号機サプレッションチェンバ内の残留水素を排出するため、H25/7/9 より窒素封入を断続的に実施しているが、H25/9/9より当面継続的に実施することとしたため、原子炉格納容器への窒素封入量が増加している状態が続いている。この状態におけるアウトリーク量を減らすため、原子炉压力容器への窒素封入量を 30Nm³/h から 24Nm³/h へ調整を実施。
- ・H25/10/10 12:43 ~ 12:46 1号機原子炉格納容器内の空調機戻り空気温度に上昇傾向が確認されたことから、原子炉格納容器への窒素封入量を、24Nm³/h から 25Nm³/h へ変更。
- ・H25/10/11 15:40 2号機原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/h から約 1.9m³/h、炉心スプレ系からの注水量を約 3.3m³/h から約 3.4m³/h に調整。

[3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況]

- ・H25/10/11 7:40 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ(10/11 7:40 時点)): 気温 20.7、湿度 98.1%
- ・H25/10/11 11:15 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ(10/11 11:00 時点)): 気温 24.0、湿度 90.2%)
プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/11 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	27.0
2号機	循環冷却システム	運転中	26.1
3号機	循環冷却システム	運転中	25.4
4号機	循環冷却システム	運転中	30

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・H25/10/15 ~ 10/16 4号機使用済燃料プール内にある炉内機器を原子炉压力容器底部へ移動するため、使用済燃料プールゲートを開く予定。本作業に伴い、使用済燃料プール代替冷却システムを停止予定。停止期間中のプール水温度の上昇率は約 0.32 /h と評価しており、停止期間中のプール水温度上昇率評価値は、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	3号機タービン建屋	10/10 10:20 [*] ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）	10/4 10:26 ~ 移送実施中

7/16 13:00 ~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

*2号機タービン建屋から3号機タービン建屋へのたまり水の移送開始時間を「11:30」と記載しておりましたが、正しくは「10:20」です。お詫びして訂正させていただきます。(平成25年10月15日訂正)

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/11 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	C系ホット試験中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/8/8 12:55 ~ 6/15に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。

再発防止対策を実施した上で、C系は9/27にホット試験を開始。A系は10月下旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。

< 5. その他 >

- ・H25/10/9 2号機の取水口スクリーンのシルトフェンス内側および外側において、セシウム 134 およびセシウム 137 の値が、10/8の分析結果と比較して有意な上昇傾向を確認。
 < 2号機スクリーンシルトフェンス内側の測定結果:10/9 採取分 >
 ・セシウム 134 :370 Bq/L ・セシウム 137 :830 Bq/L
 < 2号機スクリーンシルトフェンス外側の測定結果:10/9 採取分 >
 ・セシウム 134 : 67 Bq/L ・セシウム 137 :160 Bq/L
 [参考:10/8分の採取結果]
 < 2号機スクリーンシルトフェンス内側の測定結果:10/8 採取分 >
 ・セシウム 134 :26 Bq/L ・セシウム 137 :64 Bq/L
 < 2号機スクリーンシルトフェンス外側の測定結果:10/8 採取分 >
 ・セシウム 134 :32 Bq/L ・セシウム 137 :74 Bq/L
- ・H25/10/10 10:30 頃 5・6号機北側のCヤードにおいて、重機油圧ホースから油が滴下していることを協力企業作業員が発見。油の漏えい範囲は約40cm×約40cm×約1mmで、漏えいした油は重機上にとどまっている。また、同日10:47に富岡消防署へ連絡。なお、漏えいした油については、拭き取りを完了。同日11:40、漏えい箇所である油圧ホース接続部ににじみがあることから、当該油圧ホース接続部に吸着材の巻き付け、および滴下していた箇所への吸着材の敷設を実施。その後、油圧ホースを取外し、閉止プラグの取付けを行ったことから、油の漏えいが停止。
- ・H25/10/10 5・6号機側取水口付近のシルトフェンスについて、二重化作業を完了。
- ・H25/10/11 海側遮水壁工事において資機材搬入を行うため、1~4号機取水口付近に設置したシルトフェンスの開閉について、本日以下のとおり実施
 10:50(シルトフェンス開)~11:10(シルトフェンス閉)
 12:20(シルトフェンス開)~12:40(シルトフェンス閉)
- ・H25/10/11 13:00 頃 10/9 淡水化装置(RO-3)配管から堰内に漏れた水の回収を終了。なお、漏えい量について推定で約7m³とお知らせしていたが、漏えい水回収量を基に確認を行い、最終的に11m³と判断。その後、配管の漏えい確認等の健全性確認が完了したことから、15:46に淡水化装置(RO-3)の起動を行った。16:04 起動後の運転状態に異常無し。

【H4エリアタンク・B南エリアからの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・10/6 H4エリア グループ No.5タンクの側板1段目の解体を実施。
- ・10/7 H4エリア グループ No.5タンクの底板部の解体を実施。

<最新のパトロール実績(10/10)>

・新たに以下の3箇所について 70 μ m 線量当量率が高い箇所が確認されたが、タンク目視点検の結果から、タンクからの有意な漏えいは確認されていない。本高線量当量率箇所は、堰床部の雨水溜まりが無くなったことから確認されたものと考えている。

・H3 - B - No.6タンク(東側)

(50cm距離 1) 70 μ m線量当量率(ガンマ線 + ベータ線) 17.0mSv/h
(5cm距離 2) 70 μ m線量当量率(ベータ線) 19.95mSv/h
1cm線量当量率(ガンマ線) 0.05mSv/h

・H3 - A - No.2タンク(北側)

(50cm 距離 1) 70 μ m 線量当量率(ガンマ線 + ベータ線) 20.0mSv/h
(5cm 距離 2) 70 μ m 線量当量率(ベータ線) 69.9mSv/h
1cm線量当量率(ガンマ線) 0.1mSv/h

・H3 - A - No.1タンク(南側)

(50cm距離 1) 70 μ m 線量当量率(ガンマ線 + ベータ線) 13.0mSv/h
(5cm距離 2) 70 μ m 線量当量率(ベータ線) 39.95mSv/h
1cm線量当量率(ガンマ線) 0.05mSv/h

1:床面から50cm、タンク側面から100cm離れた位置

2:高線量率箇所から5cm離れた位置

・その他高線量当量率箇所(+ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。

・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・今回、新たに分析したH4エリア周辺観測孔(E-7)の10/9採取分の分析結果について、全ベータは検出限界値未満(検出限界値:19Bq/L)で、トリチウムは840Bq/Lであることを確認。なお、H4エリア周辺のその他の観測孔の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
10/11 0:00 時点で約3,018m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

・福島第一港湾口東側(福島第一敷地沖合1km地点)におけるセシウム134、セシウム137の分析結果については、初めて採取した8/14以降、これまで検出限界値未満だったが、10/8に採取したセシウム137で1.4Bq/Lを検出されたが、10/10再採取の分析結果、検出限界値未満であることを確認。なお、他の地点については有意な変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

・H25/7/1~ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)

・H25/10/3~ 地下貯水槽No.1の汚染範囲調査開始。

以上